

# ナワール主導で 学校現場が変わる

ガザの児童館

子どもが非常に多いガザでは、小学校は二部制で授業時間は1日4時間と、十分な学習時間を確保できません。1学級も45人で、先生は腕白な子どもたちをまとめるのが大変で、体罰もあります。そのため学校や勉強が嫌いになる子どもが多いのです。

ナワール児童館では、遊びやスポーツ、演劇や絵画といった文化活動だけでなく、学習の基礎を教える「補習クラス」を5年ほど実施してきました。この補習クラスの経験を学校でも活かしてもらおうと、今年、小学校教員を対象にした研修を始めました。児童館周辺にある小学校の教員28名に効果的な指導法を学んでもらい、実際に学校現場で活用してもらっています。

「教員の能力強化と子どもたちの学習能力向上を目指して、国語（アラビア語）、英語、算数、理科で『能動的学習法』を開発しました。教師が一方的に教えるのではなく、学習意欲を引き出す教材、遊びや演劇の要素を取り入れ、双方向的な新しい指導方法です。研修実施後、小学生760人を対象に授業が行われています」とこの事業担当のアマルさんが説明してくれました。

## 子どもが学習の主人公

研修参加者のサナ先生（アブバケル・アルスデイク小学校、3-6年生の英語担当）は、「研修では学習に活用できる遊びを30種類も学びました。勉強が得意ではない子どもたちは、楽しい動機づけを必要としていると思います。いままで授業中に発言をほとんどしなかった子どもたちが発言し、質問に答えようと競って手を挙げるようになり、クラス全体が活発になりました。この指導法では子どもたちが学習の主人公です。教師と子どもの距離が近くなったと感じます。成績にも変化が出てきています」と感想を言っていました。

カラム先生（タリク・ビン・ジアド小学校、3-6年生の算数担当）も、「受け身で参加意欲の乏しかった子どもたちが、自分で答えや知識にたどり着ける



ナワール児童館では創作活動に力を入れています。シェハダさん10歳（中右）とアセムくん12歳（右）ほか5人の小学生が作ったお話が、地元ガザで絵本として出版されました（絵は地元のイラストレーター）。日本語への翻訳を進めています。

ようになりました。子どもたちは質問を怖がらなくなったと思います。親たちも子どもの変化に気づき、『なぜうちの子は学校をさぼらなくなったの』と聞いてきました。評判を聞いて、自分の子をこのクラスに入れたいという親も出てきました」と、研修を支援している日本の市民へ感謝を語ってくれました。

## 勉強が楽しい

子どもたちはどう思っているのでしょうか。「この授業はびっくりしたよ。だって勉強がこんなに楽しいと思わなかったから。ノートも鉛筆も使わなくて、ゲームみたいだよ。ピクニックに行くみたいに楽しい気分。いままでは勉強しろと言われるのが嫌だったんだ。」（アハメド・アブディーくん10歳）

実際、学力試験の結果から以前よりも3割ほど子どもたちの成績が向上したことが確認されました。当会はレバノンの難民キャンプでも補習クラスを10年以上継続しています。ガザでもレバノンでも、詰め込み教育が主流だった学校現場に新しい指導方法が受け入れられ、日本からの支援がその一助になっているのはとてもうれしいことです。学校との信頼関係が強まる中、より多くの子どもたちが積極的に学習をできるよう研修プログラムの拡充を目指しています。